

第5回 新宿区次世代育成支援計画策定協議会

平成16年4月19日(月)

新宿区役所本庁舎 第3委員会室

1 開会

2 議事

(1) 「新宿区次世代育成支援計画(素案)」について

(2) 平成16年度の進め方について

(3) 次世代育成支援シンポジウムについて

3 閉会

資料1 新宿区次世代育成支援計画(素案)及び同概要版

資料2 新宿区次世代育成支援に関する調査報告書及び同概要版

資料3 「みんなで創ろう!子育てコミュニティタウン」

資料4 次世代育成シンポジウム企画案

午後3時03分開会

事務局（吉村）では、定刻の3時を回りましたので、ただいまから第5回新宿区次世代育成支援計画協議会を開催いたします。

議事に入る前に、委員の出席状況についてのご報告と、資料の確認をさせていただきます。

本日は、新宿区青年会議所の渡邊委員と新宿HAHAaクラブの鈴木委員が、所用により欠席です。また、日高委員からは、30分ほど遅れるとの連絡をいただいております。

次に、資料の確認をお願いします。本日の資料は、次世代育成支援計画の素案、次世代育成支援に関する報告書及び同概要版、「みんなで創ろう！子育てコミュニティタウン」というタイトルのちらし、次世代育成支援計画シンポジウム企画案、これら4点は事前を送付済ですが、本日お持ちいただけない場合は事務局の方にお申しつけください。

また、机上配布資料がございます。ひとつ目は、新宿区地域福祉計画及び概要版、ピンクの冊子です。この地域福祉計画につきましては吉澤先生も策定委員をされております。この計画はが、3月に決定しましたので、本日ご紹介させていただきます。

次に、新宿区・地域との協働推進計画です。この計画も3月に策定が終わりました。

地域福祉・地域との協働は、次世代育成支援の今後の方向性の重要な要素と考えられる関連の深い計画ですので、本日は配布させていただきました。ぜひお読みになっていただくようお願い申し上げます。

そのほかの資料としまして、16年度新宿区次世代育成支援計画策定協議会スケジュールがございます。前回配布したものと、多少変更がございますのでご確認ください。もう1点は、意見・提案・応募共通用紙です。計画に目を通したり、地域懇談会に参加した方から意見をいただく際用の紙で、計画のタイトル等を募集の応募用紙を兼ねております。その事務局案の用紙です。

次に、地域懇談会に、計画策定協議会委員の皆様に参加していただくに当たっての予定表及び、それから出前講座等を企画するための参考資料としての児童館幼児サークルのスケジュールを机上配布しております。

また、そのほかに育児支援家庭訪問事業、次世代育成支援に関する法律改正等の状況に関する説明プリントを参考資料として配布させていただきます。また、黄色い冊子は、区でつくったものではなく、今度のシンポジウムでのご提言もお願いする予定の新宿子育てを考える会が発行された「新宿保育園探検隊」と「新宿子育てつうしん」を、会か

らの依頼がございましたので、お配りいたしております。

では、議長、議事進行のほどよろしく願いいたします。

吉澤座長 皆さん、きょうはちょっと違った時間で夕方になりましたが、いつもは午前ぐらい、昼間でございましょう。

前回、皆さんのお手元にも配られておりますように、素案ができて、またじっくりお読みいただけたことだと思いますけれども、今年度の進め方ということも含めて、今日はざっくばらんにお話し合いいただければ大変ありがたいなと思っております。でも、宿題もありそうでございますし、いろいろとございますが、よろしく願いしたいというふうに思います。

では、引き続きまして、それではこの次世代育成支援計画の素案について、説明いただきましょうか。

事務局（吉村） 昨年度は素案作成にご協力いただき、ありがとうございました。作成期間が短いということで、皆様のご議論を十分とれなかったということがございましたが、今年度はゆっくりそういう時間を確保してまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

次世代育成支援計画の素案の冊子は事前に皆様のお手元に送らせていただいておりますし、こまでも中身についてはかなりお話もさせていただいております。また、次世代育成支援計画原案について、これまでいただきました意見について、どのように反映し、まだ宿題というか、今年度の検討させていただきたいものがあるということはメールで、また郵送で、お知らせしておりますので、本日は、事業について、若干ご説明をさせていただきますと思います。

まず、81ページをご覧ください。平成16年4月現在における新宿区における次世代育成支援事業の一覧を掲載しております。計画素案は、3月策定ですが、4月からの新規事業がいくつか始まっておりますので、4月現在の事業を掲載しました。そこで若干、新しい事業についてご紹介させていただきます。

まず、82ページのスクールスタッフ新宿、スクールコーディネーターの導入による教育活動の充実の欄をご覧ください。これらは今年度からの事業でございます。中身については事業内容の方をごらんください。また、学校選択制の事業の推進ですが、これは昨年度中に募集いたしまして、この4月から実際には動き出しております。

その下にいきまして、幼稚園・保育園の連携の一元化でございます。これは新宿区の実

施計画に基づき、既に以前から検討しているものでございますが、これを具体化させていく方向で検討を進めていくということを考えております。

また、その下子どもたちの遊び場・居場所の充実のための事業として、新宿中央公園活性化プランというのがございます。これは、新宿中央公園のちびっこ広場というエリアを多少区画いたしまして、親子で遊べるような場所に特化するという形で整備を進めていくとともに、地域の皆さんに参加していただいてプレイパーク活動を展開する方向を考えております。

また、プレイパーク活動への支援です。プレイパークというのは自己責任でのびのび遊べるような環境を整えていく活動です。区内では、戸山公園で既に地域のお母さん方を中心とした活動が行われています。このような活動の質を高めるためにプレイリーダーの存在が重要となっていますので、そのようにプレイリーダーに対する謝礼の一部の助成というかたちで区も応援していく、という事業を始めます。

その次の次に、みんなで考える身近な公園の整備がございます。これは区民の方々と一緒に考えながら公園整備を進めている事業ですが、この事業とは別に小規模公園の修繕に関しまして、今年度は子どもたちに呼びかけて、子どもたちと地域のおとなと一緒に考えるワークショップを、福祉と公園の所管とともに進めてまいるというものでございます。

83ページ児童館の充実の3つ目をご覧ください。児童センター運営協議会・こども館運営協議会の設置とあります。今年度から既存児童館のうち3館を児童センター1、子ども館2に変更し、中高生や幼児・小学生など対象をしぼった運営に力点をおくという取組みを進めておりますが、これらの児童館ではまた地域の方に参加していただいた運営協議会を設置してまいります。

その下の学校における子どもの居場所づくりがあります。アンケート調査においても、校庭を遊び場として活用できないかという声は非常に多く寄せられました。仮称ですが、子どもの居場所づくり運営委員会を、PTAの代表の方とか学校長、それからスクールコーディネーター等の方に協力いただきつつ、校庭の遊び場としての利用を強化していくという事業でございます。このあたりは、加藤委員の方がお詳しい分野かと思えます。

次に、6の図書館活動の充実では、子どもホームページの開設をしております。

次に、85ページです。利用者にとどく情報発信として、区民とつくる子育て情報局を立ち上げます。区では、公式ホームページ等で情報発信しておりますが、なかなか制約を多く、区民のみなさまに十分な活用されるような内容のものになっていないという課題がご

ございますので、区民の方と一緒に協働してウェブサイトを構築し、運営は区民のグループにやっていただくというような情報発信の方法を今年度検討してまいります。

次にございます「子育てサービスガイド」の発行は、これは新規ではございませんが、調査の中で転入の方への情報というのが非常に行き届いてないということが明らかになりましたので、早速、この4月から転入されてきたお子さんのいる方には手渡しをするという形できちんと届くような形をとっております。

その次の次に、ビデオ広報の制作でございます。これは公募の区民の方と一緒にビデオ広報をつくっていくという事業でございます。

87ページの中ほどに、外国人家庭の支援がございます。新宿はご存じのとおり、約1割が外国籍の方という状況をふまえ、外国籍の方の住民向けに、目的別の生活ガイドを作成してまいる事業でございます。

91ページをご覧ください。家庭・地域の子育て力・教育力をアップしますという目標のための事業の最初に子育て仲間づくり事業というのがございます。社会福祉協議会進めておりますふれあい・いきいきサロンという事業がございますが、その中で子育て中のかたのつどいを目的とした子育てサロンは、新宿区ではまだ少ないのですが、地域に気軽に集まれる仲間がいる場所です。この子育てサロンをふやしていくに当り、中心となる方を育てることを目的に始めるのが子育ての仲間づくり事業です。

次に、環境学習情報センターでございます。この4月に環境学習情報センターがオープンいたしますが、ここでは小中学生に対する環境教育を充実させていくということでございます。

その下、地域との協働で進める子育て支援では、再三ご紹介させていただいておりますが、北山伏の子育て支援協働モデル事業がございます。ここに参加してくださっている委員さんもいらっしゃいますが、北山伏保育園がこの4月から空き施設になりましたので、そこを使いまして、区民の方の自主的な活動を考えていただくところからやっていただく事業で、既に昨年から準備のためのワークショップを重ねており、今年度中に事業を開始する予定でございます。

次に、93ページのまちの子育てバリアフリーの推進では、交通バリアフリー基本構想策定がございます。従来の障害者、高齢者に加えて、子ども連れにも配慮した交通バリアフリーを目的に、子育て中の方にも参加していただきながら、作成を進めているところでございます。

そのほかに今後検討すべき事業を幾つか挙げておりますので、それをごらんください。本文の41ページです。主な事業の中の育児支援家庭訪問事業につきましては本日内容がわかる資料をつけております。これは、育児不安の方へのアセスメントを行いながらヘルパー等などが実際の育児の援助をしたり、専門職員が相談支援していくという事業でございます。この事業を検討まいります。

次に一時預かり事業です。これも検討です。アンケート調査の中で、現在保育園で行っているようなかたちの一時保育ではなく、もっと身近な親子で普段利用しているようなところで預かってほしい希望が非常に多くございました。これについては形式・方法を含めて今年度検討してまいります。区民の方の自主的な活動をサポートするような形も考えられると思います。

55ページ。ここは障害児等と家庭への支援の項でございますが、一番下に発達支援センター事業というのがございます。イメージ図もだしてございますが、障害を持っている方に対し、療育という視点だけではなく、広く発達支援という観点から総合的に相談、サービスの調整等に務めていく事業でございます。これも検討してまいります。

また、56ページに、自立支援教育訓練給付金事業がございます。これにつきましては、母子家庭のお母さんの方の能力開発のために指定の教育訓練講座を修了した方に経費の一部を補助して、母子家庭の自立を助けていくという事業でございます。

これらの事業を今年度は検討していきたいと考えております。

以上で素案の説明を終わります。

吉澤座長 ありがとうございます。主として今年度から検討、検討していつまで検討するのかと聞きたくなりますけれども、事業であるとかいろいろなご説明がございましたが。

ちょっとご質問いただいてもいいですか。いかがですか、今のお話の中で。それと、できました策定計画とのかかわりもあると思いますけれども。随分たくさんございますね。

検討というのは、今年度から。続きもありましようけれども。ほとんど今年度中とか何かそういうことは余り決まってないんですか。

事務局（吉村） 新宿区には実施計画というものがございますが、今年度は17年から19年の計画を策定する年度でございます。そこで、今次世代で検討しているものを載せていく形で実施内容、開始年度等を具体化していくという考え方を持っております。

吉澤座長 ちょっと先になるかもしれない。

事務局（吉村） できれば来年度から実施したい、するべきだというものもあるでしょうし、もう少し十分に検討した中でするべきだという考え方もでてくると思います。実施計画は17年から19年の具体的に予算の枠組みを持った計画というふうになっておりますので、実際にはそこで具体化をしていきたいと考えているところでございます。

吉澤座長 ありがとうございます。

今のことにつきましていかがでございましょうか。

松永委員 松永です。素案の全文がホームページとかに掲載される？

事務局（吉村） それの予定は後で説明させていただきます。

松永委員 で、これ1冊がまるまる全文載るとのこと？

事務局（吉村） はい。それと概要版と両方。

事務局（山崎） PDFで1冊丸ごと？

吉澤座長 よろしいですか。納得？

今の事業だけじゃなくて、素案についてもよろしいんでしょうね。そうですね、今の事業計画についてだけというんじゃなくて、関連して素案について、これから今年度この素案を検討していくということになると思いますので、お手元にあったはずですから、お読みいただいているかと思いますが。

どうぞ。

加藤委員 今の吉村さんのお話があった、81ページ以降の次世代育成支援事業一覧というのがあって、これを見ていくと本当にいろいろな、各部でいろいろな次世代のためにいろいろなお仕事をやってくださられているんですが、区民としては本当にこの情報が入ってきてないですね。これだけすばらしいのをやっているのに、僕、この中で知っているのは多分2割ぐらいということなので。やはりこれだけすばらしいことをやっているのに非常にもったいないなという気がしますよね。

だから、町会の看板見ても火災予防週間のポスターとかそういうものばかりで、そうじゃなくてやはり町内の掲示板の上には多分出張所とかがそういうものがあるんで、例えば目玉みたいなのはこういう大事なのができましたよというのは、それこそB4ぐらいだったら文句言われなんでしょうから、そういう活動やってるんだというような報告があれば、例えばこの部でこの番号にそうするとダイレクトインじゃないですけども、うちこういうのに引っかかっているんだなといったらそういうのが相談できるとか、何かそういう周知活動がどこの委員会でこういうデータ出されても、非常にこれだけいろいろなバック

アップしてくれることがあるのに全然区民は知らない、住民は知らないというんで、その辺をもうちょっとこの上の事務方の会議の中でご相談して行って、そういう周知活動をやっていたらと非常に我々としてもありがたいし。逆に、何かあれば出張所のそういう目安箱じゃないですけども、そういうところに相談持ちかけたりしているいろいろないいデータが取れるんじゃないかなという気がしました。

吉澤座長 それについて、どうぞ。

汐見副座長 きょうの議題の平成16年度の進め方というところに今のご意見は多分関連してくると思うんですけども。結局、次世代育成計画というのは、既に次世代育成に関連する諸施策と、それからそれに基づくいろいろな事業というのがこのように膨大にあるわけですね。それがきちんと実施されて、今、おっしゃるように、区民にも周知徹底されて上手に活用していただければ、従来いろいろ言われたことのいろいろな問題かなり解決できるかもしれないわけですね。

それなのにわざわざ何で次世代育成のもう1個計画つくるのかという問題が、実は次世代育成の問題だと僕は思っているんですよ。次世代育成というのはいろいろ行われてきた施策をなめらかに遂行していただくというために、新たに市民が参画した上でどういうシステムをつくれればいいのかとか、とにかくこれらを上手に市民のものにしていくためには当面どういうところに重点的な施策をもう一度改めて設定し直さなきゃいけないのか、そのところを議論していくのが実は次世代育成の計画づくりだという気がするんですよ。

例えば、今、おっしゃったような、これ例えば何百とあるんですよ、細かにやれば、事業をね。それを例えば区民が大部分知らないと。そうするとその区民が、今、子育てに関わって行われているいろいろな事業についてもっとわかりやすく情報を手に入れるようにするためには、行政に頑張ってくれと言うだけじゃなくて、我々も知恵を出して、そのためにどういう新しいプランをつくれればいいのか、あるいは場合によっては組み換えも必要でしょうし、それからインターネットその他で次世代育成の大きなホームページをパンと立ち上げて、それを見たら非常にわかりやすくいろいろなところにアクセスできるというか。従来よりもうんといろいろなものが住民にわかりやすくなったと、そういうふうな、この場合は情報システムですけどもね、つくるというところに次世代育成、我々こうやって議論して具体化して目玉を置こうとかね。

何と言ったらいいのかな、もう既にいろいろな事業をやっているところに次世代育成としてまた新しくこの分野では何の事業をもう1つやろうというようなことを提案すること



に我々の議論の重心を置くのか、これらをどういうふうにして円滑に進めさせるためにどういうシステムを新たに工夫すればいいのか、そういうところに重点を置くのか、というのが多分問われているという気がするんですね。

そこを議論、きょうね、一体これから何の議論をしていくのかというところですね。

吉澤座長 はい、どうぞ。

松永委員 それで、私、今の先生の話あれなんですけれども。先ほど伺ったホームページにこれを全文を載せるんですかというのは、そういう意味も含めて、次世代育成の支援計画としてこれらが上がってきたというよりも、今まで積み立てられてきた事業も、これから積み立てられていく事業もすべてがここに載ってしまっていると、今、加藤さんがおっしゃったような何だかわからない、だれもきっとこれは区民は読んでくれないと思います、本当に興味のある子育てのサークルとかに関わっている人以外は多分これ読んでくれないと思います。

私なんかもそうですけれども、日ごろ職場にいればホームページを見る時間ありませんし、それこそこういうことに関わるようになってから一生懸命アクセスしますけれども、本当に夜中の2時、3時、限られた時間ですよ。そういう中で例えば小中学校のホームページの開設とかスクールスタッフとか、この間もスクールコーディネーターというのがことしから随分頻繁に話題にのるようになってきているけれども、在校生はきっと実感できていない、更新されないホームページを見ても、あ、また一緒だ、そうするともう見ないです。だから、そういうところもきっとあると思うんで。

例えば次世代もそうなんです。これを全部載せても、次世代って何やってきたんだろうってきつと言われちゃうようなものじゃなくて、今、汐見先生がおっしゃったような大きな看板、この最初の方につくっていただきましたよね、イメージのこの提言、将来像とか。こういうものだけで新宿区が目指しているものはこれとこれとこれなんだと、その中で、今、汐見先生からお話しいただいたような柱の事業、これとこれをまとめてこういうふうにしていきますよとか、今までこういった事業が、せっかくいい事業があるのになかなか周知されてこなかったから、じゃあこういうふうにしますよという、それこと次世代育成がコーディネーションのパイプをつくるような方がいいのかなと。

1つ1つの内容はみんな本当にすごい行政が頑張っ、それから地域の皆さんが頑張っでいらっしやることなので、それを何とか広めたり使いやすくしたりする目玉。やはり目玉商品という変なんですけれども、こんなことができるようになったんだという柱が3つ

ぐらい、3つ、4つ、5つあるものが例えばホームページならホームページにどんと出る。そこから引っ張っていくとつながっていくという、そういう目玉を、まずきちっと私たち委員会がこの中からピックアップという大変なんですけれども、将来像に対してつけていく、柱をまずつけていくのが大事ななと思ったんですね。

吉澤座長 ありがとうございます。

進め方等の関連で皆さんお話がありますから、これは素案の内容と進め方と一緒にしてお話し合いしていただいた方がいいかと思しますので、どうぞ。

はい、どうぞ。

合澤委員 ちょっとこれまだ私詳しく把握してないんですが、実際地域でいろいろな組織、団体、学校を含めて、それから出張所がやっています例えば広報的な、そういうものもいっぱいあるんですね。ただ、そういう方が土台になりながら、やはり目的、こういうところをこうしてほしい、このいいところは残そうというような会場、それから場所、それからそれを世話というんですかね、指導者みたいな、そういう方が限られていますので。これを読んでいきますと、その部分に当たっているところもありますが、やはりそれをまず、今、あるところから、それからこれはぜひしてほしいという項目が出てきますので、そういうものを煮詰めて具体的にやっていった方が、私は地域で活動してそれを一番に感じているんですが。

例えば学校にしても、今、地域にすごく開放していますので、こういうテーマでいくと話がやはりお母さんたち、地域の人たちとある程度まとまる部分もありますし。

それから私たまたまスポーツをやっています、その団体から青少年の、要するに家庭婦人なのでお母さんたちの団体ですが、新宿区で大きな枠組みをつくってしまっていて、子どもたちの青少年のそういうものを自分たちもやってもいいというような意見もいろいろ出てるんですね。だから、そういうところとうまくつながりながらいくと、場所の提供、指導者、そういうものが出てくるので、そういう部分は皆さんでやはり見つけていくのも大切じゃないかなと思うんですね。

だから、これから形をつくりながら、それに向かっていく方向と、今、あるものをどうしたらいいかというものを考えていかないとまとまっていけないんじゃないかなというような思いがいたしますけれども。

吉澤座長 ほかにございますか。先ほどのお話と共通点がたくさんございましょうけれども。

縦割りを横割りに、どうしていくかという課題と関連しますね。

合澤委員 例えば公園なんかもよく子どもたちがバスケットして遊んでいますけれども、公園の方にいつも来て安全に遊べる、そういう場をつくってあげれば、子どもたちが自然に集まってやれるという、そういう雰囲気も大事じゃないかなと、道を通りながら思うんですが。

だから、公園の使い方もやはり、ここにも中央公園とか出ておりますが、一向を要する場があるのかもしれないと思いつつながら。

具体的なことから言っていますのでね、ちょっと目的に、それで目的に近づけばいいかなというふうに考えております。

金澤委員 すみません、公園のことが出ていますよね、何か広いところで遊びたい。ということは、要するに広場的なものが欲しいということですよ。要するに遊具だ何だじゃなくて、広場的なところで子どもたちは遊びたいというのを要求しているのが見えますよね、これからね、とるとね。

で、今、プレイパークも出ていましたけれども、現に土曜日と水曜日にやっていますよね、今。それはどうなんでしょうね。私もちょっと行って見てないのでね、行かなきゃとは思っているんですけども、利用状況というか、やっている、あれを見に行ったことありますか。

加藤委員 戸山のあそこの。

金澤委員 ええ。プレイパーク的なものをやって。

加藤委員 あれ一生懸命やって、生涯学習振興課でそのリーダーの研修、ここにも出てるんですけども、それを何カ月かにわたって、月何日のパターンなんですけれども、実際やっていて、これから広めていくということで。

ただ、私がやりたいと思っているのは、落合のおとめ山ってあるじゃないですか。あそこ自然があるので、あそこを使いたいんですね、せっかくだったら。ただ、あそこを守る会の人がいるんで、あと柵で囲まれちゃってるんで、我々がもぐり込んで遊んでいたころは自由に遊び回れたんですけども、かなり制約があるので、そういうのを公園化とそういうプレイパークリーダー各課で話し合っただけで遊べれば、ちょっと新宿区には世田谷区のあの羽根木のパークみたいなのができるんじゃないかなという感じがするんですけども。

あと、おっしゃっていたように、ここにも出ていた、新宿区には小さい細かい本当に1軒立ち退いたような公園の中にわざわざ、ちょっと事故で問題になっている遊具があるか

ら、その公園のそういうのを見直しを、今、地域の方とやるのは本当に非常にいいことなので、そういうのがバラバラなことで、先ほども申し上げたように、やっている。縦割りじゃなくて、本当にせっかくこういう会議で各事務局の方が出て来ているので、どこかで関連づけていけば、早くいい方向に。それこそインターネットでも、例えばこういう検索をすればこの中に必ず当たってという形までもっていければ、それは広報のやり方なんですけれども、やはり横にしていかないと、どこの会議でもそうなんですけれども。

せっかくこれだけいい事業を各部の方がやっているの、どこかでまとめれば、汐見先生もおっしゃったような1つの目玉が何本かできると思うんですよね。

汐見副座長 ちょっと議論に無駄のないようにちょっと敢えて申し上げますけれども、そんなに時間ないんですね、この会議のね。それで、きょうの素案でいきますと、15ページ、16ページちょっとご覧いただきたいんですが、概要でいうと最初のめくったところなんですけれども。

アンケート調査をしたりした結果、この15ページのところで次世代育成支援のための課題というのを10点ほど、8点かな、ピックアップしているわけですよ。都市の、これは利便性が高いというのはマイナスではないんですけどもね、多様性があるとかって、ただ遊び場所が少ないと、それから住民に安全への不安感が多いということと、孤立傾向が高いということと、情報が十分届いていない、総合性に改善がと、数点が改善点としてありますよね。ここにかなり出ているわけですね。

既にここにこういうふうに、これまでのメリットと課題といいますか、弱点のようところが書かれていて、この弱点を今回の次世代育成計画でアクションプランの中でできるだけ克服していくというそういうことを共通の課題にしましょうと、これ提案しているわけですよ。ですから、それでよろしいでしょうかというのがまず検討課題になると思います。ここのこれで。

それから、それと、この16ページのところにこの目標1から目標5までがあって、それでまたそれぞれが1、2、3、4、5となっていますね。先ほどたくさん紹介していただいたのは、これどこかに実はばらまかれるわけですよ、きれいに。どこかにこれとこれとこれと。それを整理してしまえばさっきみたいになるわけですよ。既に行われている事業と、それから今回新しく始まる事業とかというのをこうやってパーッとばらまかれていて、それを書いただけだったらとりわけ次世代育成としてプランつくったことに余りならないわけですよ。

そこで、さっきの5つか6つの課題を克服するために少し重点課題をすえようとして、今度5点重点課題出ていますよね。星印ついたのがこの重点課題になっているわけですよね。子どもたちの遊び場・居場所を充実するということに今回の次世代育成の何か重点を置いてみると、これはこっちから出てくるわけですよね。きめ細やかなサービス、それから総合的な展開、多様な保育サービスとあって、地域との協働する次世代育成支援というの、これは、今、5つになっています。

だけれども、個人的な感想を言うと、こちらで、例えば孤立した傾向がまだ転入者なんかにあると。そういう人たちが気楽にまちに溶け込めるというためにどういう施策を今回新しく充実するかというところで、こちらの重点施策がうまく出ているかという、それはもうちょっと検討しなきゃいけないんじゃないかとか。

それから、今、情報がなかなか届いていないという問題がありましたよね。この重点施策5つで情報がうまく届くような形になるかという、どうももうちょっと詰めなきゃいけないんじゃないか。つまり、ここで出ている課題と、それからここで出てきている重点施策との間にきれいな整合関係があるかという、もうちょっと詰めなきゃいけないんじゃないか。そのところをもうちょっと詰めるという議論を例えばしようじゃないかとか、何か少し絞っていった方がいいような気がするんですね。ここにこれだけの文章をつくってくださっているわけですからね。

松永委員 根本的に子育てする人たちが悩んでいることというのをここにまとめてもらっているけれども、本当はもっと生活に密着したところ、もっともっと生きることに密着したところにきっと何か隠れてるんじゃないかという気がずっとして。だから、これだと、ここに、今、5つありますよね、それとその中になぜこれが重点課題だよというふうに出てきたかということを書きちょっと書いてあげた上で施策を、1つ1つの項目を挙げていると、区民にもしかしたら納得してもらえ、納得してもらおうという変なんですけれども、今までとやっていることは同じじゃんと思われちゃったら残念だなとすごく思うのです。

あと、こういう事業もありますよ、こういう事業もありますよと並べちゃうと、ちょっと、今までだってそういうこといっぱいやってきてくれてるじゃないというふう思う。でも、利用できなかったけれどもね、というのにきっと終わってしまうような気がするのはとても残念なのです。

私、うまく言えないんですけども、そういうところをどう詰めていけばいいのか。

小林委員 多分、政策としてずっといろいろ読んでみて、私知らないものがいっぱいあって、多分これ昔からやっていたことも結構あったんだと思うんですね。それで、私、自分が子育てしているときにほとんど知らないことがいっぱいあったんです、実は。ああ、新宿区ってこんなこといっぱいやっていたのかと今になって知ることがあるんですけども。このやっていること自体はすごくいいけれども、どこに問題があるかということ、本当に必要な人のところに届いていないということだと思うんですね。だから、先ほどホームページを開いてインターネットと言ったけれども、本当に必要な人が自宅にインターネットを持ってパソコンを持っているかどうかということに私は問題があると思うんですね。

ですから、この施策は私はこれでいいような気がするんですけども、それをいかに必要な人のところにどうやって届けるかということ、それを組織だってどうするかを検討すれば、かなりの程度が問題解決しちゃうんじゃないのかなというふうにちょっと思ったんです。

それと、先ほど汐見先生がおっしゃっていたように、新しいことは、いろいろ話してどうしても1点とか2点新しくやらなきゃならない事業があるのであれば、それは決めればいいと思うんです。ですから、今までのやっていることは本当にいいこといっぱいあって、本当に、ええ、新宿区も捨てたものじゃないじゃないって思ったんです。ただ、それが、今、申し上げたように、しつこいようですけども、本当に必要な人のところに届かない。パソコンで検索といってもパソコン買えない人いっぱいいると思うんです。じゃあ、パソコンといたら使い方もわからない、じゃあ図書館にパソコンいっぱい置いてあってアメリカのように行って無料で使えればいいじゃないか。でも、それは実際にはないわけですよね。

ですから、その辺のところをどうするかということ、最初に先生が5%ぐらいすごくリスクの高い人間がいると。だから、その人たちのところをいかに情報がいくようにするかを考えれば、ほかの人はその人が届くのであれば、ほかの人のところは必然的に届くと思うんですね。ですから、やはりすごく子育ての忙しい時期に、その人たちにいかに届けるかということ。

私なんか見てみますと、今、いろいろな問題と言われるんですけども、私自分の子育てしているときよりもすごくいろいろなことが改善されてるんですね。ですから、私、こんなだったら、簡単に、今、子育てできちゃうのというぐらい改善されてるんで。何

か私が見ると余り問題点がなくなってしまうので。むしろ実際に、今、子育てしていて本当に困っている人たちに十分考えてもらうことが必要。そのためにはどうするかということなので、その辺をいかに知恵を絞るかなど。

だから、新たにする施策は本当にどうしても必要なこと1つか2つするんで、あとはこれをいかにみんなに届けるかということだけじゃないかなど。だから、町会の掲示板に張っても、多分ほとんどもう子育て最中の人はそんなこと見もしないし、じゃあ、検診に行く、じゃあ、検診はみんな行くから、そのときにじゃあどうするかとかというふうに絶対的に来る場所で情報を伝達していくということなのかなというふうにも思うんですけども、その辺。

汐見副座長 多分、その後もうちょっと議論した方がいいと思うんです。それで、今、議論されているのは、本当に情報を必要としている人のところに情報が届かないという、その問題ももちろんあるんですが、情報が届けば、じゃあ、子育て上手にできるようになるんですかという問題が実はもう1つあるわけです。

それで、日本の社会の大きな弱点は、最近はまだカウンセラーなどがたくさんふえていて、スクールカウンセラーだとか何とかがっているんですけども、カウンセラーがいくらふえても社会は動かないんですよ。そうじゃなくて、一緒に会って動いてくれるようなソーシャルワーカーというのがたくさん必要なんです。学校だって不登校になった子どもたちに親身になっていつもいって来て、相談に乗ってくれたりエンパワーしてくれるようなスクールソーシャルワーカーがたくさんいた方が、スクールカウンセラーがたくさんいるよりは多分役に立つわけです。病院だって、来たときにどうしたんですかっていうと、なかなか自分で言えない人のかわりになって一生懸命伝えてくれるようなソーシャルワーカー的な仕事をする人がたくさんいればあれで。それは例えば日本と欧米なんかのかなり大きな違いですね。イギリスなんかはソーシャルワーカーをどんどん減らしてきたために逆に大変になっているわけです。ソーシャルワーカーというのは目に見えて生産的な仕事をやっているわけじゃなくて、縁の下の力持ちですから。だから、消そうと思ったらぱっと消してしまえるので、そういう仕事ですよ。

例えば、情報が届かないところに届けてくれる人がいればね、例えば民生委員さんとか主任児童員さんのような方々、もっと仕事を励まされてノウハウを持って上手に伝えられて、その人たちのやっていることが上手に情報としてみんなのところに回ってきて、あそこのお母さん大変だったけれども、あそこのお母さんがいてくれたおかげで随分外

出てくるようになったよというようなことがあちこちで共有されるというようなことがあれば、多分随分育てやすいまちになるわけですね。

そうすると、今、僕難しいなと思っているんですが、次世代育成は、つまりこれまでこれだけのプランがたくさんあったけれども、必ずしも全部が届いてなかった。届いてないという中には情報が届いてないだけじゃなくて、潤滑油のような装置がやはり少なかったんじゃないかとか、そういうところに少しメスを入れようじゃないかというようなところへ、全面的にはできませんよ、一歩出ようじゃないかと。そのために僕、行政がソーシャルワーカーをたくさん養成してきて雇うということだけじゃなくて、やはり下の方からね、私たちがそれやろうじゃないかというふうなのがでてこないと多分うまくいかないと思っているんですよ。

小林委員 コミュニティの中でどう考えていくかというところを浸透させないとだめだということですね。

汐見副座長 だからね、何と言うかな、温かく動いていきやすいような支え方、支え合い方。そのために、やり方ですけれどもね、あれもこれもじゃなくて、例えば5%だったら5%のハイリスクの親御さんたちを、例えば孤立させるんじゃないくて、その人たちが気軽に出てくれるようなそういうところを差し当たり新宿の中でこことここに重点的にちょっとモデル地区を育てて、この次世代育成をやってみようじゃないかとか、そういう形で何かモデルを切り開くというようなことをやってみるとか、そういう提案をするとか、何かそういうことが新しさなんですけれどもね。

松永委員 日高さんも私もきっとそうだと思うんですけども、こういう時代に子どもを生んでいて、今、育てながら、私たちが育った時代と余にも違って、私たちの母親は1人で子育てをした。だれの手も借りなかったよ、1人で育ててきたんだ、そういう教えを受けてきたんですけども、そう思って頑張ってみてきた。ところが、私たち育ててみたら、親だけじゃ育てられない、親だけじゃもう育てられる時代じゃないんだということに最近少し気がついてきた。だれかの力を借りていいんだというんですか。

小林委員 私の親なんかもそう言うけれども、現実問題は本当に違ったんですよ。ただ、それを親が気がついてなかった。結局、私なんか田舎で育ててるんですけども、田舎ですと、それこそ隣近所のおばさんとか近所のお姉さん、お兄さんが面倒みていただけの話で、親はそんな1人で子育てできるほど昔の親はひまじゃなかったわけですから、生活に追われていたから。そう親はそういう、私たちが育てた親がそういう幻想にとりつかれて



いるだけの話で、現実にはその人たちは夫婦でなんか絶対子育ては昔もしてなかったんですよ。だから、そういう人たちがそういうことを言うものだから、みんなが、ああ、そうなんだと思って頑張ってしまったところに問題があるんで。そうじゃなくて、昔も今も地域で子育て、昔も地域で子育てをしていたのに、みんなは錯覚に陥っていただけの話で。昔もそんな夫婦だけで育てたうちって、絶対、ましてや昔10人とか、もう田舎なんて10人ぐらい子どもいたんですから、それを1人の人が洗濯機も何もなくてこうやっていたところで育てられていたわけがないわけだから。

だから、そんなのは社会でもともと育てるんだという概念に早く移行しないことには変な幻想にとりつかれて1人で子育てというところに、変なところにはまり込んでしまっている。

松永委員　そういう遠慮を持っている人がきっと、うちの子は私が育てなくちゃというところにとらわれている人とかきつといっぱいいると思う。そういうところから先生がおっしゃったような地域の力で、力を借りようよ、力を借りることが子育てで恥ずかしいことでも何でもないんだよ。そのためにこういう施策があるんだよというのを何か1つメインに置いていけたらなと。

だから、そのためにこういうことをしていこうよと。そうすると、例えば、今、汐見先生とか加藤さんとか小林さんがおっしゃったような具体策がきつと、そういう地域のネットワークづくりがやはり一番なのかなという。それを柱にしていくのが私はいいのかなという気がしています。

小林委員　結局、子育てする人自身がその地域の一員だよと実感できるような環境にすればいいことですよ。だから、みんな孤立しちゃうというのは、その地域の一員だと思っていないから孤立してしまうわけだから、ある1つの町会だったら町会の自分は地域の人間だということを自覚できるように地域がなればいわけですよ。

松永委員　PTAもそうなんですけれども、結局やり手がいない、なるのが嫌だ、とにかく一方でコミュニティ大事、ネットワークづくり大事ってすごく言われていて、みんなそう思ってるんです。そう思ってるんだけど、いや、私は、いや、私は、その繰り返し。だから、その壁を取っ払えるような。そうすると、だれかが負担してるんです。必ずPTAでもだれでもそんなの、だれかが負担している、その負担を見ちゃうから、みんな余計引いちゃうんです。だったら迷惑かけないように生きてくわって。それがすごく悪循環になっているような気がするんで。

小林委員 そう言えば、ひまな人間もいるんだから、一方では大変な人間って、そこをうまく地域でできれば。だって、絶対、今……

汐見副座長 そうだ、ひまな人をなくそう。

小林委員 そう、すごくひまな人多くて、それこそグルメ三昧している人がいるけれども、別に消費しているのも大事なことなんだけれども、でもやはりもうちょっと社会に少し貢献しようよ、地域でもうちょっとしようよということになれば、引っ張りだせば、ひまな人がいて大変な人がいるんだったら、助ければいいわけなので。

松永委員 この間、全然道がそれちゃって、ごめんなさい。いいですか。全然また関係ない話ですみません。私、学校に行ったら学童の養護さん、子どもたちに交通指導して下さる方がシルバーさんになっていて、何だかとっても、すごく失礼なんですけれども、子どもがもし走り出したらとめられますかってお見受けしてしまったんですね。もちろん力のおありの方だからそうなんだと思うんですけども。ちょっとすごく心配になってしまったので、ちょっとした事件というか、事件でも事故でもないんですが、トラブルというか、子どもだからそうかもないというようなこともあって。

そういう力を借りるときにも、やはりもしかしたらこれ今まで行政が責任を持って受けていた仕事なんだから、そのシルバーさんにこういうことをちゃんと伝えたのかなとか、こういうときはこうなんですよと指導したのかなと思ったんですね。シルバーさんの中には、たくさんそういった力を持った方いっぱいいらっしゃるからそういう方を使ってまちを活性化していくのは大事なんですけども、だったら今までやってきたこととかこういうことが大事なんだよということはきちんと引き継ぐときにちゃんと研修とかしてあげていけば、きっともっと自信を持ってシルバーさんたちもことに当たれるんだろうなとかと思って。やはり、だから、そういうのも全部コーディネーションですよ。

小林委員 社会がやはり全員がある意味覚悟しなきゃいけない時代に、子育てに覚悟しなきゃいけない。だから、それをどうするかということ。

汐見副座長 例えばね、政策的に行政の方は行政で各部局でやっている、縦割りをできるだけ、例えば王道というような形で余りにも縦割りになりすぎているやつを少し合理化するというか、これは行政に努力してもらいますわね。だけれども、今、言った地域での、やはり地域に組織がないとやはり無理なんです。そうすると、例えば子育てサロンだとか子育てサークルだとかやっているような人たちを上手に連絡して、例えば新宿の子育てを支えるようなネットワークだとか、あるいは新宿何とか会議だとか、市民の方が横にい

ろいろな努力している人たちをつなげて、そこでしょっちゅう情報交換したり、例えばそこで勉強会してみたり、そこで新しい事業をしてみたりというようなことで、それに行政の方がバックアップしていくというような、そういう形でいわば点としてしかなかったようなものを少しずつつなぎ、面にしていくというような、そういう主体が市民の中にないと、いくらわあわあ言っても多分空回りなんですよ。

だから、市民の側がこれを機会にして新宿区子育てネットワーク組織というものを拡充していくというようなそういうことを同時に、ここで高らかにうたわないと、そして実際にそういう担い手が出てこないよ。

小林委員 具体的にはもう既に児童館とか地域センターとかってあるわけですね、設備自体が。

汐見副座長 あります。

小林委員 だから、結局、基本的に子育て中の親が集まるところというのは多分そういうところ、あとは保健所とか保健センターですか、名前変わって、そういうふうなところであれば、要するにそういうところにいかに拠点を置いて、それを地域の子育て中の人たちにいかに伝達していくか、そうするとそこを担っていく人間をどう確保していくかということだろうなと。

汐見副座長 その場合に、行政の組織を利用したような活動でしょう。それだけじゃなくて、純粋に民間でやるという場合もあるわけですよ。そういう人たちがどこでどういうふうに来てどう動いて行って、そしてばらばらにやるんじゃなくて、一緒にみんなでやるうじゃないのとか、広場一遍やってみようじゃないかというようなことを、別々にしないでやった方がずっと効率的ですよ。

小林委員 要するにネットワーク化するわけですね。

汐見副座長 そこに行政がいろいろやっている情報が入ってきて、それだったら一緒にやるうじゃないかというようなことをやったら、楽にもっと大きなことができるでしょう。そうすると、力を、今、言ったようなことで、注いでいけるわけじゃないですか。

松永委員 例えばそういうことをするのに、「新宿の探検隊」つくった人たちもそうだと思うんですけども、いつも1つのおうちを借りてるんですよ。1軒のおうちでいろいろな発送作業をしたりとか。

だから、その北山伏のケースじゃないですけども、私前から何度も言っているような気もするんですけども、みんながそういうネットワークづくりをつくれる場所、例えば

児童館を借りるにしてもことぶき館を借りるにしても、本当にいろいろ制約が多いんですね。もうたった七、八人の学童の役員のお母さんたちと会いたくても、夜子どもを連れて、じゃあ、どこに行くって。それこそパソコン持ってない人もいます、携帯は電話しかつながらない人もいます、ネットワークでしゃべりたくても夜仕事が終わってから集まるところもない、そういった集まる場所をまず環境整備としてやってきたところでネットワークが、顔を合わせないとやはり人と人ってつながらないような気がするのです。

そういうところもうたい文句の中にちゃんと入れてあげて、ネットワークづくりを次世代がうたうんだよということであれば、そういった施策づくりももっと必要だと。

小林委員 そういう場合は具体的に、もうある程度これとこれとこうでこうしますよというところまでいかなければ話は進まないですよ、漠然とネットワーク化しましょう、するといいですよじゃなくて、どうしてどうこうしなければこうしますというところまで具体的なところまで決めていかないと、要するに話は進まないですよ。それはいいですよで終わってしまうと、そうすると従来と同じことになってしまうんで。

もしやるのであれば、かなり具体的に、例えばこことこことこの児童館で、じゃあ、ここを何とかにして、例えば北山伏だったら北山伏でこういう感じで、じゃあ、だれがどこに行つてというところまで話を詰めていかないと、話は具体的ににならない。

汐見副座長 話を詰めるというよりも、そういうことをやる人が出てこないといけない。

小林委員 できないですよ。

汐見副座長 そうです。次世代育成やってきて、いろいろな人が出てきたと、そしてだれだれさんとだれだれさんが中心になって、上からの動きにタイアップしながら、下から動き始めた、そうならないと多分こんなプランはね。さっき言ったみたいに2割ぐらいしか情報来ない現状は克服できない。

吉澤座長 ちょっとあれですけども、今のお話ね、十分やられているかやられていないかという問題はありますけれども、ふれあいのまちづくりというのは方々でやっているわけですよ。これ社協がやって。こういうこともやはりお題目に、ちょっと言い過ぎかもしれない、終わっている状況がありますのでね。1つは、今のお話の中では住民意識の変革でしょうね。それも一方でなくちゃならない。その中でまたリーダーの養成というんじゃなくて、リーダーの発掘とでもいうんですか、だれが発掘するのか。だれが、おっしゃるように、何と何とやりますと決めるのをだれがするのか、ここはだれがやるんだろうというふうに思いますね。

松永委員 気持ちを持っている人はいっぱいいるんだろうけれども、声を上げにくい環境がある。

吉澤座長 だから、それをどういうふうにするかという課題なんでしょうね。

私も小さな地域でやっていますが、意識の変革というのは大変難しいです。変革というと大げさですけども。ですから、そこら辺は新宿という地区の特徴もありましたけれども、この辺をもっと具体的にどうするかということをもうちよっと詰めていかないと。

そして、今、汐見先生おっしゃったように、モデル地区でもいいんじゃないでしょうか。だから、そういうことで、1つできればね、そういう状況があるでしょうし。

それから、もう1つは推進協議会でしたっけ。その推進協議会でもう少しね……

汐見副座長 この後ね、終わった後ね。

吉澤座長 それの地区別のね、その辺をどういうふうにしていくかということも考えなきゃならない1つでしょうね。今のお話の中で。

松永委員 それがすごく機能すると、いろいろ横のつながりがきちっと出てくる……

汐見副座長 推進協議会のことどこかに書いてある。

事務局（吉村） 地域協議会のことでしょうか。

汐見副座長 ええ、地域協議会。

事務局（吉村） 頭のところです、4ページのところに計画を推進していくための体制づくりという。

吉澤座長 それをいかに具体化するかが1つの課題になりますでしょうね。

それから、社協がやろうとしている、やっているはずなんですよ。

事務局（吉村） ふれあい・いきいきサロンですか。

吉澤座長 サロンもそうです。ふれまちというのはどの地区でも全部やっています。ふれまち、ふれまちって。

事務局（吉村） もともと社協は……。

吉澤座長 はい、それが中心になっているはずですよ。もうちょっとそこを機能してもらうような働き方も一方で必要じゃないでしょうかね。

事務局（吉村） 社協は、今、住民活動計画というのをつくってしまして……

吉澤座長 やってるんでしょう。その前は地域福祉活動計画というのをやっていた。みんな計画計画で……。

事務局（吉村） そちらの情報は正確にはまだつかんでおりませんが、6月ぐらいには出

てくると思います。

吉澤座長 はい。でも、具体化しないと問題は解決しないと思うんですね。

合澤委員 ちょっとよろしいですか。私、具体的なことばかり言うんですが。児童館の方に行ったときに、やはりそういうお母様方が集まって、いろいろ会議したり、子どもたちと一緒に遊ばせながら、職員の方も一緒に指導じゃないんですけども、遊んでらっしゃるんですね。だから、さっきこの場所を借りたりとか、いろいろな運営するという意味でね、こちらの方にも児童館とかそういうものや学童クラブも載ってますので、そこで話し合えば、そこが集まれる場になれるかもしれないと思うんですね。なりますよね。そうすれば、1つそういうところできれば、いろいろなつながりが。初めはそういう方のお母さんの集まりの場でいいと思うんですね。

学校の場合は、やはり幼稚園なんかはお母さん同士で預けて出られてるんですね。だから、そういう方たちが集まりやすいようなところを地元のやっていただければ、1つそこで道が開けるかなと思うんですね。

松永委員 これはすごい余談なんですけれども、地域センター、畳、自由にありますよね。そして、あそこで、じゃあ、みんなで話ししようよ、許可もいらないからといって行ったら、中学生に占領されて使えなかったと。

合澤委員 どこかで道開かないと。

松永委員 おしゃべりできる場が本当にないんですね。集まって。何か相談に行くところがない。

合澤委員 どっかできっかけ開けば。

加藤委員 汐見先生じゃないですけども、回数が少ないので本当にこの施策体系の中でこの順番どおり片づけていって、とりあえずはひとつ片づけるとどういうふうに広がってくるかというのがあるんで、それでやって、本当に子どもたちの遊び場となると、やはり学校の開放の仕方、児童館のあり方、あと公園の見直し、それをやっていけば、おのずから出てくると思うんで、そうやっていかないと、とてもこの会議の数だけじゃ間に合わないんで。どんどん進めていかないと。

汐見副座長 本当言うとね、例えばこれ15ページに幾つか課題ありますでしょう。まず、これでいいですかと。例えば僕が見るところ、例えば中高生対策というのは一体この中でどう入ってくるんでしょうかというのが多分後でかなり出てくると思いますよ。若者がね、パフォーマンスする場所だとか、今、若者ってコンビニぐらいしかたまる場所がなくて、

あとは新宿は何でもないですけれども、渋谷あたりたむろする、夜10時ころ行ったらすごいんですよ。僕らなんかちょっと違和感のある存在になるわけでしょう。それを何か変な目つきで見ちゃったら、やはり彼らだって余り前向きとしないでしょう。

そうすると、若者が上手に自己表現し合えるような場所というのはどういうふうにつくっていくのかというようなことを、多分テーマになっていて。それがここで出せるかどうかは別として、そういうことについて引き続き検討していくというようなことが出てこないとはやはり。多分この間は何か小さい子どもだけじゃない、そんなっちゃいますよね。

金澤委員 あと、でもね、榎町の児童館が、今、児童センターになって、中高生の居場所づくりを、今、始めてるんですね。こういうような居場所は確かにできるんです。藻mm代は、心の居場所になるかどうかかなんですよね。でも、もう始まりつつありますからね。

汐見副座長 でも、そういうの次世代育成だとしてね、例えばモデルとか何とか、応援するかとかね、何かそういうことを始めたところについてはみんなでサポートしていくような形で入れておいた方がいいような気がします。

それから、最初に去年やったときに、大量アンケート調査だけでは心の、肌に触れるような、ひだまで入ってくるような不安だとかそういうところはやはりなかなかつかめないんじゃないかということで、幾つかやってもらったじゃないですか。そうすると、何で子育てやりながらいららしてパチンとやってしまうのかとかって、あるいは何で子育てが楽しくないのかといったときに、孤立しているということもあるし、遊び場って危険だとか不安とかあるんだけど。例えば自分の亭主が全然やはり本気で参加してくれないとか、何か子育てのことが夫婦げんかの種になってしまうとか。それから、女性自身が母親として今の自分に必ずしも満足していないというのか、何かこういうふう生きてきて、こうやってここにいるということ自体が何かそれでいいのかという、実存的な不安みたいなのがあって、何か子育てというのに全力になれないという。だから、いろいろな、今の若い人特有の悩みあるわけじゃないですか。で、バリバリ働いている人を見るとうらやましく思うんだけど、でもあれであの人一生終わるといふ、あんなふうには私はしたくないわとかいろいろなことを考えながらね、自分には満足できていないというような。そういうのはどうしようもないんですけれども。

ただ、そういうことが思い切って語り合える場所だとか、そういうことを言ったらみんなで聞いてくれるような場所だとか。昔だったらお寺さんに行けば聞いてもらえたとか、何かそういうような場所って必ずあったわけですよ。そうすると、大量に、ものすごく

危機、危ないボーダーだとかハイリスクだとかという人じゃなくて、普通のお母さんが子育てやりながら、だんだん自分が、それを逆転するというか、私ってかわいいじゃんというように思えるような、何かそういうようなことも本当は課題なんじゃないかという。

そこももうちょっとうまく表現してくれると、それを読んだ人が、そう、私、そんなのよなんていうような感じになるという気がするんですね。

松永委員 自己肯定感が持てない親が、今、子育て、子どもが自己肯定感を持てないんじゃないかって、親が母親が自己肯定感を持ってなくて、こんな本当は私違うんだけどというのがすごくケースとして多くって、子どもが嫌いとかそういうことじゃなくて、ここにいる自分、これでいいのかしらと思っている子育てしている人がいて。

汐見副座長 結局、自分で自分のことを全部つくってきたんじゃないかって、やはり自分も生きさせられてきた、ルールに乗せられてきたという、そこまできてるんだけど、深いところで自分は肯定できない。全部何か手に乗せられてきたという感じでしょう。

だから、幼稚園とか保育園なんかでね、親を支援するといったときに、子育てああしましよう、こうしましようなんて言ってるんじゃないかって、思い切って自分をばかにしてみようとか、思い切って子ども戻ってみようとか、仮装行列やってみたらものすごく乗ってくるんですよ。違う自分になりたくてしょうがない。そういうふうにやりながら、本音で話し合えることの喜びみたいなのを手に入れながら、少しずつ親として自己肯定をふやしていく。だから、昔と大分違うんです、やり方が。

だから、子育て上手にやりましょうというようなサロンをつくったとしても、多分余り広がらない。ここでもう思い切ってばかになろうとか、亭主の悪口言い合いしようとかというわあっと盛り上がりますよ。

松永委員 あと、お父さんですね。お父さんたちだけのネットワークづくり。

汐見副座長 親父の会なんかね。

松永委員 親父の会。やはりそれって……。

汐見副座長 親父の方がもっと不安が強い。本当は。

松永委員 鬱屈している。子育てにどう手を出していいかもわからないし、どう関わっていいかもきっとわからないし。まだいまだにどんなに国をあげて父親も子育ての責任があるといっても、現実には全くね、不可能。

汐見副座長 新宿区内にある企業が次世代育成のプランをつくらなきゃいけないわけでしょう。それに対して区が応援すると。どこかに書いてあった。



合澤委員 そういう面もありますよね。やりたくてもお父さまが、そういう会社の時間に制約されているというのが。だから、それが続くと、やはりお母さんは、わかってはいても、感情的になってね、やはりそういう感じが出て。

だから、今、おっしゃったように、そういう会社ができるのと随分ね。

汐見副座長 つくりましょうよ。

松永委員 親父の会を組織する。

合澤委員 模範的にとか。

小林委員 ひまでもどうやって子育てしていいかわからないという親、多分父親もいると思うんですね。うちにいてもひまがあってテレビごろごろ見るしか、どうやって子育てを手伝っていいかわからないって。

汐見副座長 子どもがなついてくれない。やり方わからない。母ちゃんの方もやっもらうと何かカップラーメンみたいなのを食べさせやがってという感じになってね、あの人にやらせると何するかわからないとかね。

小林委員 多分そういうのもあると思うんです。忙しいこともあるけれども、ひまでもどうやっていいかわからないという。

吉澤座長 きりなく出てまいります、一応きょう課題みたいなものが多少見えてきたかなという気もいたしますけれども。いかがですか。担当者として何かありますか。おっしゃることありますか。そろそろ……。

事務局（吉村） ご意見に対してですか。特に今はございません。

吉澤座長 ないですか。はい。

いや、そうおっしゃるけれどもというものがあれば、またちょっと出していただいた方がいかなと思って。よろしいですか。

事務局（吉村） では、1つ、中高生にとっての干渉とはというのはやはり課題ということで、29ページの方にも書いてはありますが、ここにもございますとおり、中高生というのは干渉を嫌う年代でございます。大人が用意したものをなかなか利用してくれないというようなことがあるので、その中で行政がどこまでできるのかというのはそれぞれのところで悩んでいるのかなと思います。

1つご紹介すると、新宿区役所の表玄関のところは、夜は若者たちのパフォーマンスの練習場所になっているというのをご存じでしょうか。夜になるとラジカセを持った若者が。

松永委員 大きな鏡。

事務局（吉村） そういう場所をうまく利用しながらやっているなという例でございます。そのような例をとらえながら、どういうふうに行政として関わっていくのかなというのが課題です。

汐見副座長 区役所前提供事業とか何とか。

吉澤座長 ちょっと政策とは……。

金澤委員 いろいろありますよというんじゃなくて、自分で見つけるんですよ、たしか。

汐見副座長 そうです。ドイツなんかではね、若者にあれこれ大人が干渉すると逃げていくんですよ。例えば1つのビルを若者に全部開放するんですよ。そのかわり、中で麻薬しているかもしれない、何をしているかもわからない。でも、そのリスクを侵してでも若者たちに開放する以外に、若者たちにたまり場所をつくれなと思いますよ。そういうのはもうやる限り、そういうことはリスクは覚悟だと。それはもう家庭教育だ、学校教育もそういうことを前提にやってほしいということをするんですよ。それを嫌だということであれば、あちこちでぷつんぷつんと出ちゃうわけですよ。

吉澤座長 そうすると、いかに大人が受けとめるか、受けとめの姿勢を。

汐見副座長 そう、広く受けとめるかということですね、若者というのをね。

吉澤座長 これも意識の問題かなという感じがいたしますね。

はい、どうぞ。

松永委員 1つお願いなんですけれども。皆さんとこうやっていつも顔を合わせて会議に、おしゃべり……。

吉澤座長 何でもしゃべれると。

松永委員 こうやってしゃべり合えるといろいろなことがだんだん見えてくるのもあるし。

吉澤先生、汐見先生のご意見を伺うと、1つ1つ自分が普段考えていることが、あ、形になっていくような積み重ねを、今、感じているので、もしこの場でこういうことを言っているのかどうか分からないんですけれども……

吉澤座長 気にしないで何でもどうぞ。

松永委員 もしも先生方のご都合がつかずならば、我々委員で勉強会みたいなのを別途これから……。またシンポジウムとかが始まっていったときに、私たちどこまで何を語れるのかだんだん不安になって、もう少し私たち自身がしっかりしなきゃいけないかなというふうに思ったりして。できれば先生方の……。

汐見副座長 5月18日からあれだよ。地域懇談会。でも、余り構えないで、みんなでわ

あわあやって、それでいいと思いますよね。

吉澤座長 ということです。しゃべることが大事なことですよね。

小林委員 余りこういうふうに言ってしまうと、行政の肩代わりでしゃべるようなことになってしまう可能性が、勉強しすぎちゃうと、何か多分。これはこっちが説明することになると、何か行政の話になっていっちゃわない。

汐見副座長 でもね、ここはやはり僕らはそういうこともできなきゃいけないと思うんですよ。つまりね、市民の立場としてこうだけれども、だけれども、いろいろなことあれもしてほしい、これもしてほしいといっても、それ実際にはコストパフォーマンスがあるわけで、そんなものできるわけないことはたくさんあるわけでしょう。そのときに、どこだったらできるかという感覚の問題というのは、ある意味では行政の人が一番悩んでいることなんです。そのことがある程度わかりながら、いろいろそこをもうちょっと柔軟にするためにどうするかという知恵を出すわけですからね。

小林委員 その辺って、例えばしゃべるときにどこまで言っているのか、どこまでというのわからないですよね、正直言って。

汐見副座長 いや、私は個人的にこう思いますけれども、実際にはねというようなことでいいんじゃないですか。

小林委員 ああ。

吉澤座長 まあ、ここで盛んに言っている協働ということの意味も考えてお互いにしていくという大事さもあるんじゃないでしょうか。だから、個人的に私はという、今、ご意見も出ましたけれども、それはそれなりと。状況に応じていかがですか。余り固くならないでと思うんですけれども。ただし、言ったことに対する責任もお互いに持ちましょうと、こういうことで進めていただければ、一番よろしいかなという気がいたしますけれども。

これからまだいろいろ出てくる問題ですが、とにかくきっかけといいましょうか、これからの進め方のきっかけができてきたんじゃないかなという気がいたします。

汐見先生のご指摘の15ページですか、こちら辺も念頭に置きながら、少し整理をしながら、きょうの発言も皆さんも発言もしながら考えさせていただいたらどうかなというふうに思います。

それまでの間に、とにかくここにきょうスケジュールが、後で説明していただきますけれども、各地区で懇談会やシンポジウムもございますし、ですからそういうようなところで、委員の方々がそれぞれやはりお立場も心得ながらご出席いただいて、そして状況をよ

く判断をしたり、あるいはさっきの情報の問題もございましたし、あるいは住民の意識の問題もありましたし。

何か私考えると、具体的には3つぐらいあるのかなと、3つって、これからの課題で。さっきソーシャルワーカーというお話があった。これは私の領域なんでございまして、スクールカウンセラーに対してはちょっと私批判もあったんですけども、スクールソーシャルワーカーという課題を少し掲げている1人なんですけれどもね。そういうソーシャルワーカーの問題。

これは養成の問題もありますし、またスクールソーシャルワーカーって専門家も必要ですけども、地域の人たちがもう少しちょっと意識と少し知識と、そして技術も学びながら。あるところでこれはある市ですけども、ミニソーシャルワーカーって。ミニというのをくっつけてね、いいか悪いかは別ですが、住民の研修をやってるんです。これは神奈川なんですけれども。そういう人たちが地区の中で子育てやその他の、それこそコーディネーターの機能も果たしております。果たそうとしているというかな、果たしつつあると言った方がいいでしょうか。ちょっと私はそれに関わっておりますもんですから。そういう課題も考えていく。そうすると、リーダーということが1つ大事なんです。

それから、もう1つは、さっきからおっしゃっていた、場なんですよね。場所と言わないで場というふうな言い方をします。場所となりますと、所というと物理的な場だけ提供すればいいというんじゃないくて、やはりそこで心理的にも精神的にも共通の場が持てるような雰囲気も大事だろうと思うんです。

それから、3つ目は、これはそんなことないとおっしゃるんですが、ある程度の助成が必要だと思っんです。お金ですよ。高額じゃなくていいんですよ。支えるというお互いの集めてみてもいいし、それから融資が集めて、研修費なんかついたりしているところもございまして、そういうふうな、これは意識になってくるんだと。

この3つがそろっていくと、何となく具体化していくんじゃないかという気はしなくはない。これは勝手なことをちょっと、きょうのお話の中でちょっと思ったことですが。

そういうことを念頭にしながら、さて、それぞれがお願いして皆さんが地域の中に入り込んでいただくというような形で予定もございまして、これからの進め方は、何回でしたかね、何回かしかないので、その中で今の確認をしていくということで。きょうはとりあえず下地を耕すともいうんですかね、そういうことで位置づけさせていただいて、

そしてそれぞれが地区の懇談会に臨んでいただければというふうな気もしますんですが。

いかがなものですか。

事務局（吉村） 今、先生がご提言いただいた3つについて、もう一度区の動きを多少宣伝をさせていただいてよろしいでしょうか。

まず、リーダーあるいはソーシャルワーカーということでは、児童館の職員をソーシャルワーカーとして育てていこうということ、今考えています。

吉澤座長 そうですか。そう思ってたんですけれどもね。構成員だけじゃなくて。

事務局（吉村） 児童館職員は遊びのリーダーという役割もございますけれども、やはり従前からソーシャルワーカーとしての役割も担っていくべきと考え、研修を取り入れておりまして、今後きちんと育てていきたいということを区としては考えております。

また、子育て仲間づくり事業を立ち上げ、地域の中で子育てサロンづくりを呼びかけるなど、地域の子育ての中心となって若いお母さんたちの気持ちも受け入れられるような人材、そういうものを育てていきたいと考えています。社協とタイアップしながら取り組んでまいります。

また、場ですけれども、これは場所ということになると思いますけれども。

吉澤座長 場所ですか。

事務局（吉村） 場はまだできないんですけれども、場所という意味では北山伏にございます保育園跡の空き施設を区民の方自身で考え皆さんが利用しやすいような形の事業を実施していただき、区は応援というか協働していくという取り組みを進めています。今まで行政が行うと、なかなか利用しづらかった面というのがたくさんあります。おのずと行政では利用方法の制約等ございます。そこは皆様で考えていただいて、利用しやすい場としてつくりあげていきたいというふうに考えています。

また、助成制度ですが、この地域との協働推進計画の13ページをごらんください。区民が支える協働推進基金、これを今年度新宿区は考えてまいります。多くの区民の方や、NPOへの財政支援を推進していきます。また別に、具体的な区民の方への活動助成としては、プレイパークのリーダーへの支援ですとか、そういうものも個別には考えているというようなことで。

その辺意識しながら、まだあと足りない部分というのはご提案いただきながら具体化していければいいのかなというふうに、今、伺っていて思いました。

ちょっと補足させていただきました。

吉澤座長 はい、ありがとうございました。

事務局（吉村） 今年度の、では、これからの地域懇談会等の予定に入らせていただきます。

もうお目通しいただいていると思いますけれども、まず、のシンポジウムですが、5月14日、6時半から8時半まで牛込筆筈区民ホールが会場として取れましたので、予定どおり行いたいと思います。基調講演は汐見先生にお願いいたしまして、「次世代育成支援計画の意義」ということをお願いしたいと思います。テーマはよろしいでしょうか。もし、もう少し違うテーマがいいということであれば、まだちらしの印刷はこれからでございますので、きょうご提案を反映することができます。

また、2部のシンポジウムは吉澤先生にコーディネーターをお願いいたしまして、「新宿区次世代育成の提言」ということで企画書を送らせていただいていますのが、そのお三方にこの計画の今の先ほどから話題になっておりました課題ですね、情報、地域での支え合い、それから支援が届いていない方への支援をどうするかということそれぞれの立場から、既に実践の芽を出されている、活動を初めていらっしゃる方をお願いしたいと考えています。

牛込筆筈区民ホールは、ご存じのように300人以上入る……。

汐見副座長 400人。

事務局（吉村） ところですので、ぜひ、今、民生委員の協議会等ほかの地域の方の方にも回っておりますけれども、多くの方にご参加いただきたいと思っておりますので、宣伝の方をよろしくをお願いします。

それから、策定協議会と共催という形を考えておりまして、当日もしお時間ある方がいらっしゃれば、運営等のご協力をお願いしたいなというふうに思っております。後でそれは打合せをさせていただきます。

次に、18日からの地域懇談会は、各特別出張所単位で、平日の午後、土曜日の夜、土曜日の午後、日曜日の昼間、あと平日の夜というふうに時間や曜日がかたよらないように設定しております。また、6月29、30日、7月3日は従前広報で企画しております「区長と話そう新宿トーク」と共催で行います。次世代の方が主催は25日までの7回ということになります。こちらの次世代主催の方にできれば委員の皆様手分けしてご参加いただいて、意見交換の中に入りたいというふうに思っております。

そのときには、この委員会のご出席と同じ扱いをお願いします。策定協議会の活動とし

をお願いします。

また、出前懇談会も実施します。区主催の会に来られない方、また子どもたちだけの会など地域ですでに活動されている中に子どもが出向いてまいります。この点については情報提供を随時させていただきますので、そのときにお時間がある方は、来ていただけたらと思います。

また、この素案の全文は、先ほど松永委員の方からご質問ありましたけれども、こちらのちらしにあるように区の施設のほか、私立の幼稚園、保育園にもご協力いただきまして、閲覧用の冊子を置いておきます。また、概要版は希望する方に皆さんにいきわたるよう閲覧場所においてまいります。区のホームページからダウンロードもできます。

そのほかに、計画に興味を持っていただくための企画といたしまして、前回は申し上げましたけれども、計画のタイトルとみんなに伝えたい子どもの言葉、親子の会話を募集します。なかなか行政計画というと手に取っていただけないというふうに思っておりますので、こういうことをきっかけにしてやっていきたいということで、これは5月5日から7月31日まで、このようなちらしと広報等で宣伝しながらやっていきたいと思っております。

このタイトル、それから子どもの言葉、親子の会話は、計画本文、最終計画には巻頭特集というのを組みたいと思っております、そこに載せてまいりますので、たくさん集まってしまった場合は、策定協議会で選考をお願いしたいと思っております。また、計画のタイトルもこの協議会で選んでいただきたいと考えております。

次に、今年度の今後のスケジュールをごらんください。懇談会等は5月から夏ぐらいまで展開してまいります。9月以降、そこで出てきた意見をどのように計画に反映していくかという具体的なことになるんですが、その間に何もしなくてもいいのかということにつきましては、ちょっと皆様のご意見をいただきたいと思っております。皆様がお時間が都合がつけば、この間に何回か集まっていただくことは可能ですので、結果をどのような形で反映していくのか、レポートなりを出していただけるのか、そのあたりのこともご協議いただいて、いい計画にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

吉澤座長 ありがとうございます。

そして、日程的には、じゃあ、この後、終わってからですか。何日にだれだれが行くかという希望。

事務局（吉村） 本日この時間内で決めていただきたいと考えております。

吉澤座長 できるだけ5時の間にできるようにしましょう。

事務局（吉村） そうですね。

吉澤座長 ということでございますが。いかがでございましょうか。それぞれが地域に出かける前に、あるいは間で、地域に出かけている間でこの会をどう持つかということもあるお話ですね。

いかがでしょうか。私は先ほど自由な討議の中でいろいろ出てきたのをもう一度やって、もう少しまとめてみたらどうかという気がいたしますが、どんなものでしょうか。

汐見副座長 それと関連するんですけども、そのそれぞれの地域でどんなことが話し合われたかというような、そういうまとめはどなたかやったださるんですかね。

事務局（吉村） 私どもも参加いたしましてそれはまとめますけれども、やはり委員の方が参加して、どのように感じられたか、ここ私たちが思っている重点と、そうじゃないだろうというご意見あると思うので、できれば、例えばA4、1枚でレポートするとかというのを決めていただいて、それを持ち寄るといった形ができればよいのですが。

汐見副座長 私としてはですね、このメンバーでメーリングリストをつくってくださって、それで例えばここでこんな懇談会をしたというときの概要と感想とか、それを短くてもいいから全員にリストで流してくださるとか。そこに当然行政も入って行政としてはこういうこと大事だと受けとめたというようなことをまた入れてくださるとか。それで、必要だったら少しそのメーリングリストで議論するとかというふうにしていけば、これ7地域だけ。

事務局（吉村） はい。

汐見副座長 それを、リアルタイムで大体伝わっていきますのでね。面倒くさいと言われたらそれまでなんです。それがあれば私は大変助かりますけれどもね。

吉澤座長 いかがですか、今のご意見ございましたけれども。それはレポートをするんですけれども、書かないということですね。

汐見副座長 いやいや、だからそれはそのまま印刷してしまえばレポートみたいなものですよね。短くてもいいから。とにかく忘れないうちに、きょうのうちにこんなことが意見出たとか、書くときにメールに書いてくだされば。

吉澤座長 ですから、書かないで済んでしまう。

汐見副座長 ああ、そうですね、書かなくて済みますよね。

吉澤座長 そういうご意見もございますけれども。

汐見副座長 それで、それ場合によってはそれが出た後に、これどちらにしてもこれに対



してそういう意見をどう反映していくのかということについてまた議論しなきゃいけないからね。

吉澤座長 そうです。

汐見副座長 だから、集まって議論するとどうしても時間が足りないかもしれませんので、事前に少し、例えば委員長名でちょっと意見ちょうだいなんていったら何人かできょうやってということで集まったり少し議論がされているというふうにできればね。

吉澤座長 議論することがわかっていて議論するのと、白紙で来てしゃべるのは違うと。

汐見副座長 久しぶり集まってわあわあといって、またふわーっとなってというよりはいいんじゃないかという気がしますけれども。

吉澤座長 そういうご意見もございましたけれども。

それは地域に行ったときのレポートですよ。

汐見副座長 だから、メーリングリストをつくっておけば、あとはいろいろ会議がそこでできるんじゃないかということです。

吉澤座長 そうしたら、集まりを持たなくてもいいということですか。

汐見副座長 いや、だから、最低限の集まりは僕やった方がいいと思いますけれどもね。多分、あちこちでやったらそういう細かな情報、忘れないうちに伝えておくということが意外と大事になるんじゃないかと思ったんですけれども。

松永委員 例えばこの間の山崎さん、吉村さんからお返事いただいてみんなが書いた意見とか反映しましたというか、こういうふうに検討しましたというご意見を一緒にいただきますよね。それを例えば要するにみんなでメーリングリストで回せば、ああ、だれだれさんこう言ってくれたんだとか。

汐見副座長 そうそう、私も賛成とか。

松永委員 賛成とかって言えるというのはすごくうれしいなと私は思います。学童クラブもみんな働いている母親なので、学童の新宿連協もそうなんですけれども、メーリングリストを立てて諸連絡、それから意見、この学校でこんなことがあったとか、この学童でこんな素敵なことがあったとか、いいことから悪いことまで全部みんなのおしゃべり場になっていて、忙しければ、読むだけでも情報は得られますし。非常に役に立っています。

吉澤座長 それは1つの連絡の仕方ですよ。

ちょっと私、今、提案したのは、今、いろいろこれからの課題をもう少し整理しないといけないと思いますので、それはちょっと集まっていた方がいいように思いますけ

れども。それは、今、汐見先生のご提案のようなのは、実際に現地に行ったときの後のレポートというか、でしょう。

汐見副座長 会議はどこか開いていただきたいんですけども。要するにメーリングリストづくりませんか、それだけの話なんです。そこで例えばいろいろなことを書き込み合いして。

というのはね、もう9月には大体まとまらなきゃいけないんですよ、これ見ると。そして、10月にはもうちゃんと正式の文書として出なきゃいけないわけでしょう。そうすると、実質的には7、8で議論をしておかないとだめですね。そうすると、そんなに頻繁に集まれるというわけじゃないですから。5月、6月にかけていろいろ意見いただいたやつを、そこで議論しておいて、7月ぐらいに集まってやるという方が早いなと思って。

吉澤座長 効率的ですね。その出かけるちょっと前ぐらいまでにですね、もう1回というのはいかがでございましょうか。申しわけないけれども。ちょっと、今、先ほどののはちょっとまだふわっとしていますのでね。少しまとめさせていただく、プラスアルファもあると思いますので、それを少し提起していただいて、そして今の現地に出まして、それからメールによつてのディスカッションをすると、こういう段取り、いかがなものでしょうか。

よろしゅうございますか。そうしたら、いつぐらい。

それ、よろしいですか、事務局。

事務局（吉村） もし5月18日の前ということであると、連休が入りますので、もう余り実際に設定できる日は余りないようですが。

吉澤座長 無理だったら仕方ないですけども。

事務局（吉村） 連休明けですと、例えば10日。あとは18の直前でもよければ17、それぐらいですね。

汐見副座長 14日のそのシンポの前はだめ。

事務局（吉村） シンポの前に早く来ていただくということですか。

吉澤座長 いいですね。もしよろしければ。

それでは、会場はあちらでやるわけでしょう。

事務局（吉村） 筆筥に集まっていただいて。筆筥は午後から借りておりますので、部屋は……。

事務局（山崎） 楽屋も使えます。

吉澤座長 よろしいですか。

14日の何時にしましょうか。始まるのは6時ですよ。

汐見副座長 4時から6時ぐらいにしておきますか、4時から5時半とかね。

事務局（吉村） 6時開場なので、ちょっと4時から6時だと。

汐見副座長 3時半から5時半。

吉澤座長 よろしいですか。では、一応ご予定いただいて、そこでもうちょっと詰めさせていただいて。

事務局（吉村） では、確認させていただきます。では次回は、5月14日の3時半から、牛込笹笥区民ホールの楽屋または会議室で。

また通知は差上げますので、その楽屋になるのか、保育室を借りている地域センターの方の部屋になるかはご連絡させていただきます。

吉澤座長 それで、お願いですが、きょうのことも踏まえながら、少しまとまるようにお考えいただいて、ご意見とか。まとまるようになって、こういうこと、こういうことということがね。大体先ほどのお話もございましたけれども、ちょっとプラスアルファをきちっとお互いに確認し合って、そして次に入りたいという気がいたしますもんですから、ちょっと勝手なことを言って恐縮ですけれども。そうでないとばらばらになってしまう。

汐見副座長 質問ですけれども、北山伏はそこにいろいろなNPOとかが入る。

事務局（吉村） 今はそこに自主的に集まっている方でグループをつくって、最終的にNPOのような形ができればいいなということですが、NPOがそこに入居するとか、そういうところまではまだ詰まってないんですね。

汐見副座長 そうですか。要するに、新宿のいろいろな市民の子育て関係の任意団体NPOがね、どこか拠点をつくるとしたら、北山伏がちょうどいいのかなと思ったんですけれども。

事務局（吉村） あるグループからはそういう提案もあるんですよ。ですから、それを皆さんに北山の中でそういう場所、部屋として使うかどうかというのも北山で。

汐見副座長 提案できればね。

小林委員 だから、やはりグループでなりたくて来ている人もいるみたいで、子ども関係のやって、もう既にNPOつくっているの。ただ、そういうためにあそこを事務所化しちゃうと本当の子どものための人たちがやるのとどうするかというのをこれから話し合っていくということ。

汐見副座長 だから、ネットワーク組織とか連絡組織ができないと、個別にというのはできないと思うんです。だから、それをきっかけにつくってほしいという。

小林委員 だから、28日に話し合うことにはなってるんです、北山伏は、その辺を。

汐見副座長 だから、次世代の育成のこの策定委員会の名前でね、そういう新宿区の子育てネットをこの機会にやはりちゃんとしたものというのをつくってほしいと。

小林委員 その辺を結構、もし逆に言うと、はっきり出しちゃって、北山伏の方にそういう形で入っていった方が、最初からの部分でははっきりする、どうですか。

事務局（吉村） そうですね。あくまで行政が主導ということではなく、そこに集まった方に発案していただく中で、ただこちらがあつたらいいなと思っていることがかなり提案されているということで、方向性はみな割と一緒ですよ。

汐見副座長 同じですよ。

小林委員 そうですね、出てきてはいるんですけども、例えば突然とある程度できちゃったところに次世代のが入りますよと言っちゃうと、え、何か行政の方がという印象があるから、最初からそこへ入る形でしていった方が摩擦が少なくて済むのかなとか。あるいは協働でできることがあるかなという。一応前回はある程度代表の人が集まってもうちょっと話を詰めようという話になって、今月の28日に北山伏に集まって、10人ぐらいで話し合うことにはなってるんですけども。

汐見副座長 それはいろいろ議論しなきゃいけないと思いますけれどもね。終わった後にね、何とか会議、協議会ね。協議会がどういう組織としてつくられるかというのはこれからのテーマなんですけれども。その中に、要するにこのつくられたプランがどういうふうな潤滑にうまくいっているかどうかということのチェック、それから提案、再提案とかということをやっていかなくちゃいけない。そのときに、これそのものはもともと市民が活性化していかなくちゃできないプランだということになったときに、そこに市民のグループの代表が入っているということが大事だと思うんですよ。恒常的にね。だから、そこをにらんでね。

小林委員 すごく時期的にいいんですけども、いいと私すごく思っているんですけども、ただ参加、今、している人たちがこのもの自体を知らない人もいるんじゃないかと。

汐見副座長 だから、説明に行かないといけなし。

小林委員 ある程度早い時点でアピールしておかないと、やはりやりたいことがこれと重複している部分も結構この間の話し合いでも多いんで、そうすると、その人たちがやると

ころにうまくいけばいいんですけども、突然来てしまうとあれなので、やはりある程度のところでおかないと、やっている人間は民間でやろうやろうとしているところに何となく行政側の感じのところが突然出てきてしまうと、一生懸命やっている人の感覚として、えっというところが出て。

汐見副座長 いやいや、行政じゃなくて、民間としてやってほしいんだけど、その連絡をね、やはりここでとってほしいというようなことですよ、結局。

小林委員 だから、そのところある程度早い時点で兼ね合いはしておいた方がいいような気はするんですけども。

汐見副座長 と思いますけれどもね。

小林委員 私もそう思います。

場所としてもすごくいいんじゃないかなという気はいたします。新たに場所がフリーになっているわけだから。

と思うんですけども、どうなんですか。

事務局（吉村） ですから、区が提案するというのではなくて、この中でそういうものが必要だということがあれば、どなたかが行っていただいて、そういう提案をして、その提案をしたからその人がやらなくてはいけないということではなく、この指とまれで、そういうのに賛同する人がいればそういうグループができて、そういうものも北山の中で事業化されるということになりますので。それを私の方からあそこの場所に行って、これやりたいというのはちょっと違うのかなと思っています。

吉澤座長 では、次回の楽屋でやるところでもうちょっと皆さんのご意見もちょうだいして考えさせていただくということによろしゅうございますか。結果をどういうふうにするか。

事務局（吉村） 最後ここに反映されるのかということをやっと練っておいていただいた方が。

吉澤座長 そうですね。

汐見副座長 念頭に置いて議論していかないと、もうね。ばらばらの議論じゃ間に合わない。

吉澤座長 そういうことによろしゅうございますか。

汐見副座長 はい。

吉澤座長 では、きょうはこの辺で終わらせていただいてよろしゅうございますか。

いろいろありがとうございました。

午後4時50分閉会